

2023 年 4 月 10 日

アステラス製薬株式会社との共同研究契約締結のお知らせ

Veneno Technologies 株式会社（本社：茨城県つくば市千現二丁目 1 番地 6、代表取締役社長：吉川寿徳、以下、「当社」）は、アステラス製薬株式会社（本社：東京都中央区日本橋本町二丁目 5 番地 1、代表取締役社長 CEO：岡村直樹、以下「アステラス製薬」）と、共同研究契約（以下、「本契約」）を締結いたしました。

本契約締結により、当社は、アステラス製薬が標的とする G タンパク質共役型受容体 (GPCR) に対し、当社の次世代ペプチド探索技術 PERISS 法を用いて機能性ペプチド (DRP) を取得するプログラムを実施いたします。

以上

■ 本件に関するお問い合わせ先

Veneno Technologies 株式会社

事業開発担当 平良光、松川泰久

E-mail: info@veneno.jp

G タンパク質共役受容体 (G protein-coupled receptor, GPCR) は、細胞外の神経伝達物質やホルモンを受容してそのシグナルを細胞内に伝える役割を有し、細胞内外の恒常性維持に関与しています。GPCR には様々な種類が存在し、多くの疾患に関与しているため、重要な創薬ターゲットです。

ジスルフィドリッチペプチド (Disulfide-Rich Peptide=DRP) は、分子内に 3 つ以上のジスルフィド結合を有する、20 から 60 アミノ酸残基程度のペプチドの総称です。分子内の複数のジスルフィド結合により固く締まった分子構造を有し、直鎖状ペプチドなどと比較しても熱や pH、分解酵素に対し高い安定性を有する分子です。DRP はバクテリアからヒトにいたるまで広く自然界に存在しますが、動物の毒液中にも見られ、微量でも強力に作用するよう毒液の主要成分として進化してきた機能性ペプチドです。高活性で高選択性を有する天然の作動薬として優れた機能を有することから、新たな創薬基盤分子として近年注目されています。